

# JOINT STAFF PRESS RELEASE

<http://www.mod.go.jp/js/>

## 平成27年度自衛隊の災害派遣及び 不発弾等処理実績について



28. 4. 28

統合幕僚監部

# 1 災害派遣

## (1) 全般

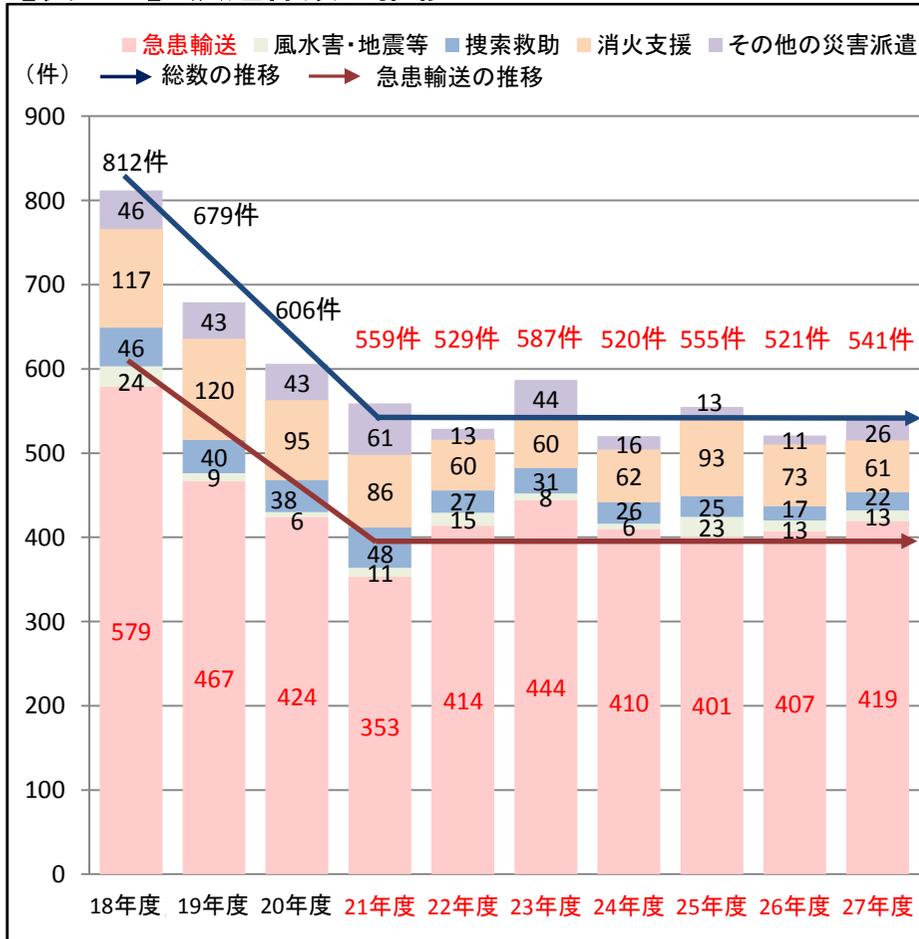
### ■ 27年度派遣件数：541件

- **ドクターヘリの導入促進(※1)に伴い、自衛隊による急患輸送件数が減少し(※2)、派遣件数全体が減少したものの、21年度以降は年間500件台で推移**
- **過去10年間、急患輸送が最多であり、派遣件数全体の約6割～8割を占め、27年度は全体の約80%**
- **派遣件数の内訳は、概ね一定の割合で推移(派遣規模の大きい風水害・地震等は1～4%)**

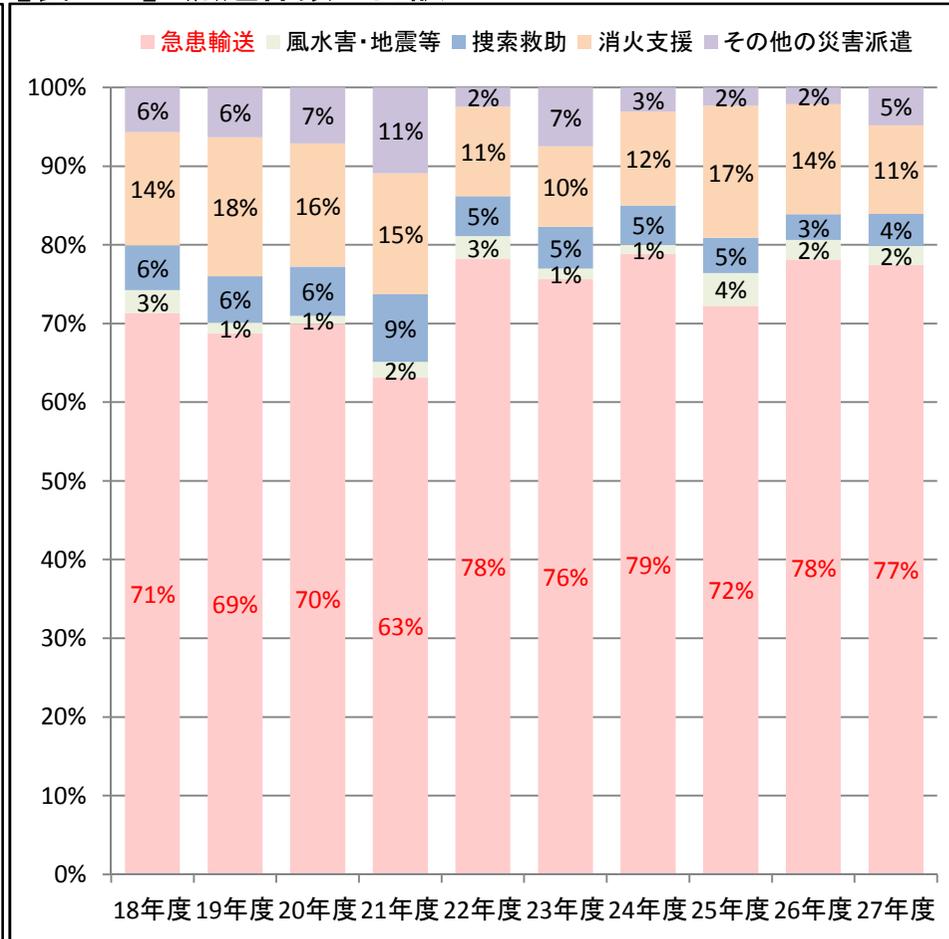
※1 出典：厚生労働省ホームページ(<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200000335ux-att/2r9852000003360r.pdf>)

※2 別紙第1参照

【表1-1】 派遣件数の推移



【表1-2】 派遣件数の内訳



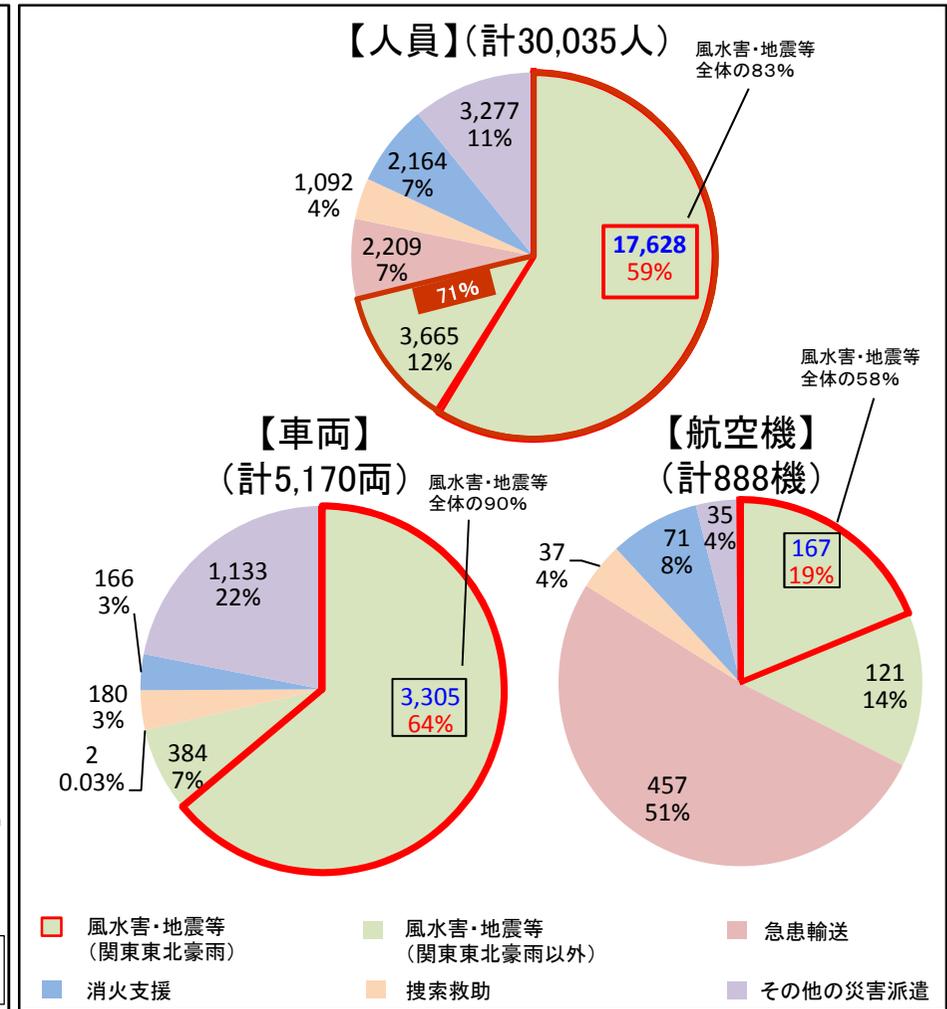
■ 27年度派遣人員：30,035人

- 過去10年間、風水害・地震等を除き概ね一定である一方、大規模な風水害・地震等が発生した年度は派遣人員が著しく増大
- 27年度は、約7割が風水害・地震等に伴う派遣であり、中でも、平成27年9月関東・東北豪雨に係る災害派遣の占める割合が大(約6割)

【表1-3】 派遣人数の推移



【表1-4】 27年度の災害派遣の内訳



(2) 細部実績等

風水害・地震等

【表1-5】 27年度の風水害・地震等の大規模災害

| 件名                              | 時期                  | 活動地域  | 派遣部隊   | 規模(延べ)                                       | 活動内容                                |
|---------------------------------|---------------------|---|--|--|-------------------------------------|
| 平成27年9月関東・東北豪雨に係る災害派遣(茨城、栃木、宮城) | 9/10<br>～<br>9/19   | 茨城県<br>常総市及び結城市<br>栃木県<br>日光市<br>宮城県<br>大崎市及び大和町  | 陸自： 東部方面隊(第1師団、第12旅団、東部方面直轄部隊)、東北方面隊(第6師団、東北方面直轄部隊)、中央即応集団 等<br>海自： 航空集団(第21航空群、第51航空隊)<br>空自： 航空総隊(航空救難団、偵察航空隊 等) | ・ 人員：17,628人<br>・ 車両： 3,305両<br>・ 航空機： 167機  | ・ 人命救助<br>・ 行方不明者搜索<br>・ 入浴支援 等     |
| <参考><br>九州北部豪雨に係る災害派遣(熊本、大分、福岡) | 平成24年<br>7/12～7/21  | 熊本県<br>熊本市、阿蘇市、<br>南阿蘇村及び高森村<br>大分県<br>竹田市、日田市及び<br>中津市<br>福岡県<br>朝倉市、久留米市、<br>柳川市及び八女市 | 陸自： 西部方面隊(第4師団、第8師団、西部方面直轄部隊)  | ・ 人員： 5,348人<br>・ 車両： 1,279両<br>・ 航空機： 35機   | ・ 人命救助<br>・ 行方不明者搜索<br>・ 水防活動 等     |
| 御嶽山における行方不明者再搜索への支援に係る災害派遣(長野)  | 7/3<br>～<br>8/7     | 長野県御嶽山  | 陸自： 東部方面隊(第12旅団、東部方面直轄部隊)、中央即応集団   | ・ 人員： 2,665人<br>・ 車両： 338両<br>・ 航空機： 101機    | ・ 輸送支援<br>・ 映像伝送 等                  |
| <参考><br>御嶽山における噴火に係る災害派遣(長野)    | 平成26年<br>9/27～10/16 | 長野県<br>木曾郡王滝村及び<br>木曾町  | 陸自： 東部方面隊(第12旅団(主力部隊)、第1師団、東部方面直轄部隊等)、中央即応集団 等<br>空自： 航空総隊(航空救難団、偵察航空隊 等)  | ・ 人員： 23,011人<br>・ 車両： 2,644両<br>・ 航空機： 294機 | ・ 人命救助<br>・ 心肺停止者の搬送<br>・ 行方不明者搜索 等 |

風水害・地震等に対する人員、車両及び航空機の派遣は、比較的大規模

別紙第2「平成27年9月関東・東北豪雨に係る災害派遣(茨城)」

別紙第3「御嶽山における行方不明者搜索への支援に係る災害派遣」

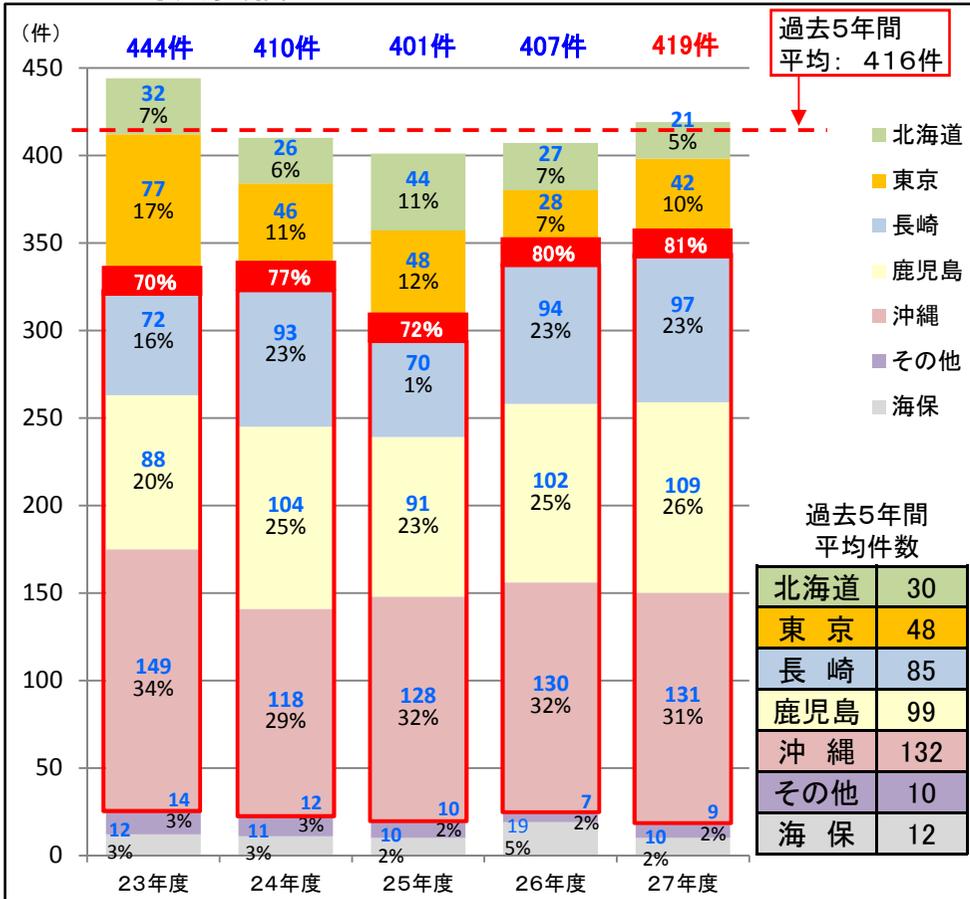
別紙第4「火山活動に係る災害派遣等」

# 急患輸送

## ■ 27年度総件数： 419件

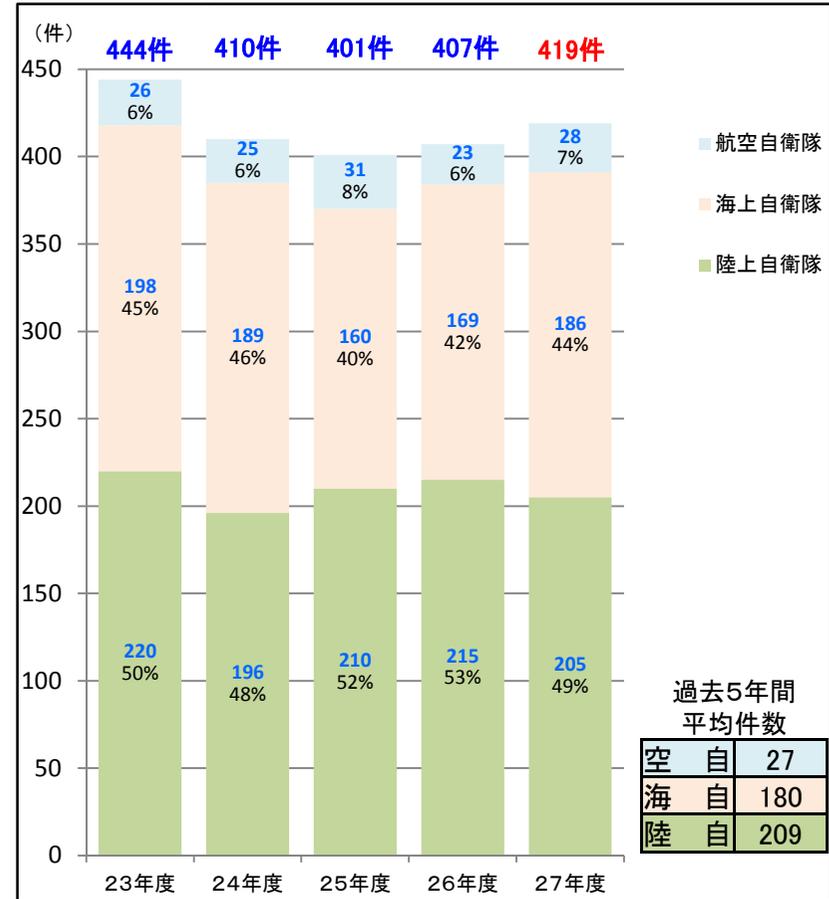
- 総件数は、前年度比12件増、過去5年間の件数とほぼ同様であり、**大幅な増減なし**
- 要請都道府県別、陸海空自衛隊別ともに、**大幅な増減なし**

【表1-6】 過去5年間の急患輸送の総件数及び要請都道府県等別実績



過去5年間いずれも、**島しょ地域の多い県**(長崎、鹿児島及び沖縄)からの要請が7~8割を占める傾向

【表1-7】 27年度の急患輸送の陸海空自衛隊別実績



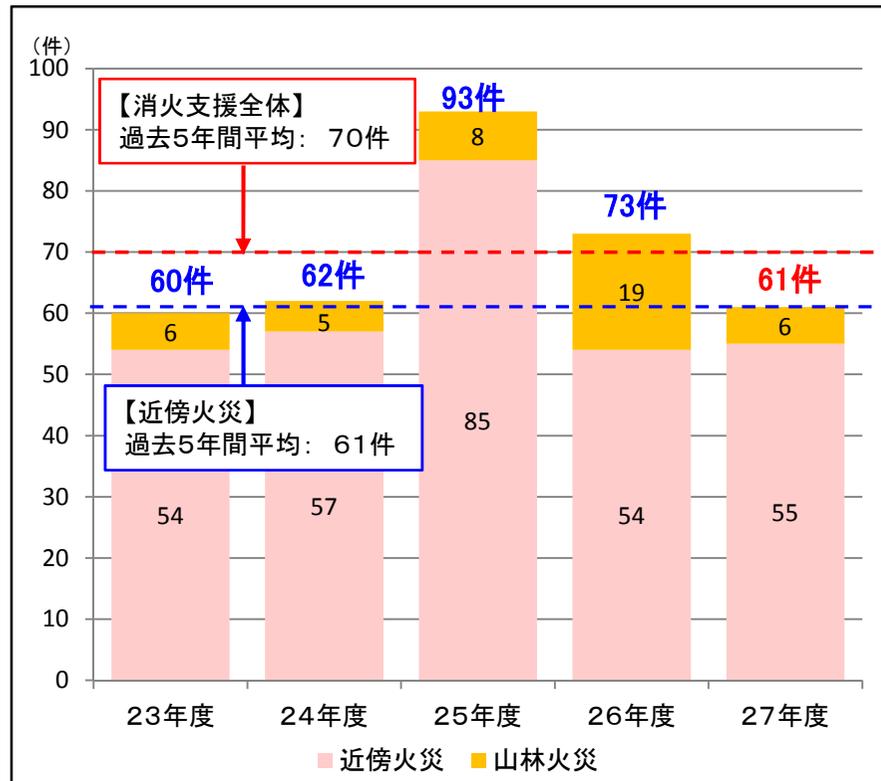
23年度以降毎年度、**陸上自衛隊**の占める割合が**最多**(約5割)

## 消火支援

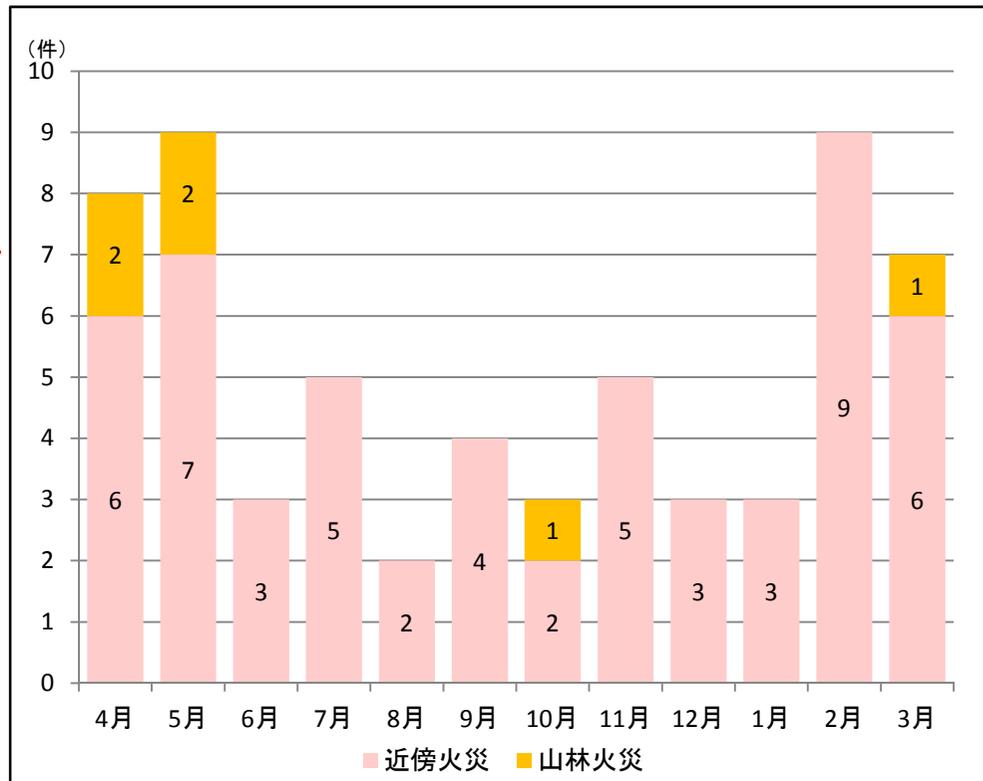
### ■ 27年度総件数： 61件

総件数は、前年度比12件減少し、**過去5年間の平均より少ないものの**、依然消火支援のニーズは多い

【表1-8】 過去5年間の消火支援の年度別実績



【表1-9】 27年度の消火支援の月別実績



- 27年度の近傍火災件数は、**前年度比ほぼ同数**、過去5年の平均より6件少ない
- 27年度の山林火災件数は、**前年度比13件減**

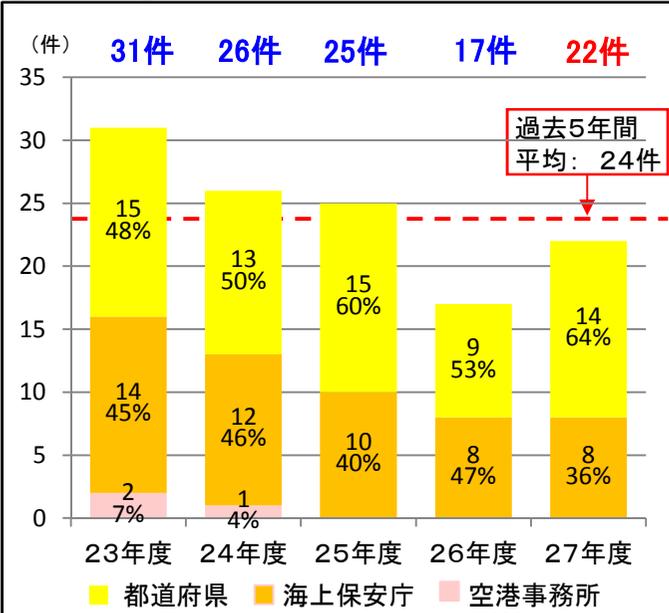
- 近傍火災は**冬季から春季に多い**傾向(2~5月:年間の約51%)
- 山林火災は**春季に集中**(3~5月:年間の約83%)

## 搜索救助

■ 都道府県からの要請に基づく搜索救助  
北海道からの要請が最多(14件中12件)

■ 海上保安庁からの要請に基づく搜索救助  
第11管区海上保安本部(沖縄)からの要請が最多(8件中4件)

【表1-10】 過去5年間の搜索救助の年度別実績



【表1-11】 要請機関別実績

| 要請機関  | 件数 | 種類                 | 派遣部隊                                     |
|-------|----|--------------------|--|
| 都道府県  | 14 | 山岳遭難者搜索<br>行方不明者搜索 | 陸自: 第2師団<br>第6師団<br>第7師団 等<br>海自: 第22航空群 |
| 海上保安庁 | 8  | 遭難船舶搜索<br>行方不明者搜索  | 海自: 第5航空群<br>第43掃海隊<br>空自: 航空救難団         |

【表1-12】 要請者別内訳(都道府県)

| 要請者    | 件数 |
|--------|----|
| 北海道知事  | 12 |
| 福島県知事  | 1  |
| 鹿児島県知事 | 1  |

【表1-13】 要請者別内訳(海上保安庁)

| 要請者              | 件数 |
|------------------|----|
| 第1管区海上保安本部長(北海道) | 1  |
| 第4管区海上保安本部長(愛知)  | 1  |
| 第7管区海上保安本部長(長崎)  | 2  |
| 第11管区海上保安本部長(沖縄) | 4  |

- 総件数は22件であり、前年度比5件増加したものの、過去5年間の平均よりは少ない
- 27年度を含め直近3年間は、空港事務所からの要請はなし

## その他の災害派遣

■ 断水への対応  
大雪等の影響による断水のため給水支援を実施

■ 座礁船乗組員の救助  
救難ヘリにより、座礁船の乗組員の救助に係る災害派遣を実施

【表1-14】 断水のための給水対応実績

| 時期 | 場所  | 件名                            | 派遣部隊                                     |
|----|-----|-------------------------------|--|
| 1月 | 計8県 | 大雪等による給水支援に係る災害派遣(総給水量約1285ト) | 陸自: 第4師団<br>第8師団<br>第13旅団 等<br>空自: 第8航空団 |

【表1-15】 座礁船乗組員の救助実績

| 時期 | 場所  | 件名  | 派遣部隊      |
|----|-----|---|-----------|
| 1月 | 山形県 | 山形県酒田港における乗組員の救助に係る災害派遣(乗員18名(ロシア人14名、バングラデシュ人4名)、10名を自衛隊が救助(8名は海保が救助)) | 空自: 秋田救難隊 |

## 2 不発弾等処理

### (1) 陸上において発見された不発弾その他の火薬類

■ 全国：処理件数 1,392件、処理重量 43.0トン

○ 記録のある昭和50年度以降、戦後の時間経過に伴い、処理件数・処理重量ともに急激に減少し、平成以降、緩やかに減少

○ 平成以降、全体としての処理件数は概ね一定数を維持する傾向にあることから、引き続き処理ニーズは存在

■ 沖縄：処理件数 575件、処理重量 20.2トン

○ 記録のある昭和50年度以降、沖縄県では処理件数・処理重量ともに漸減傾向

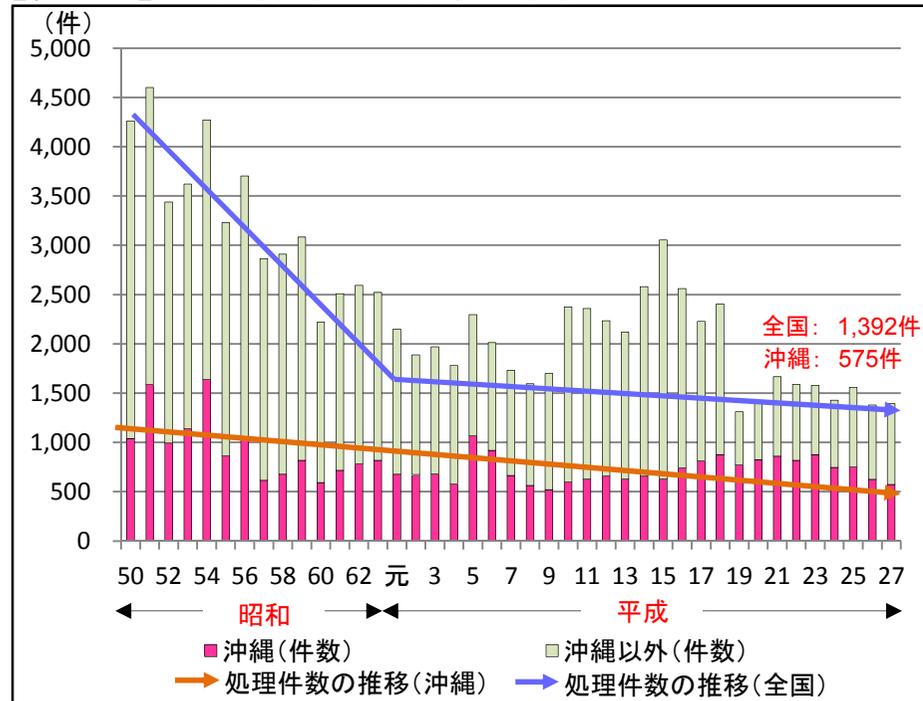
○ ただし、沖縄県の全国に占める割合は引き続き大

(処理件数の全国比は、昭和50年度～平成18年度平均が約31%に対し、平成19～27年度平均が約51%)

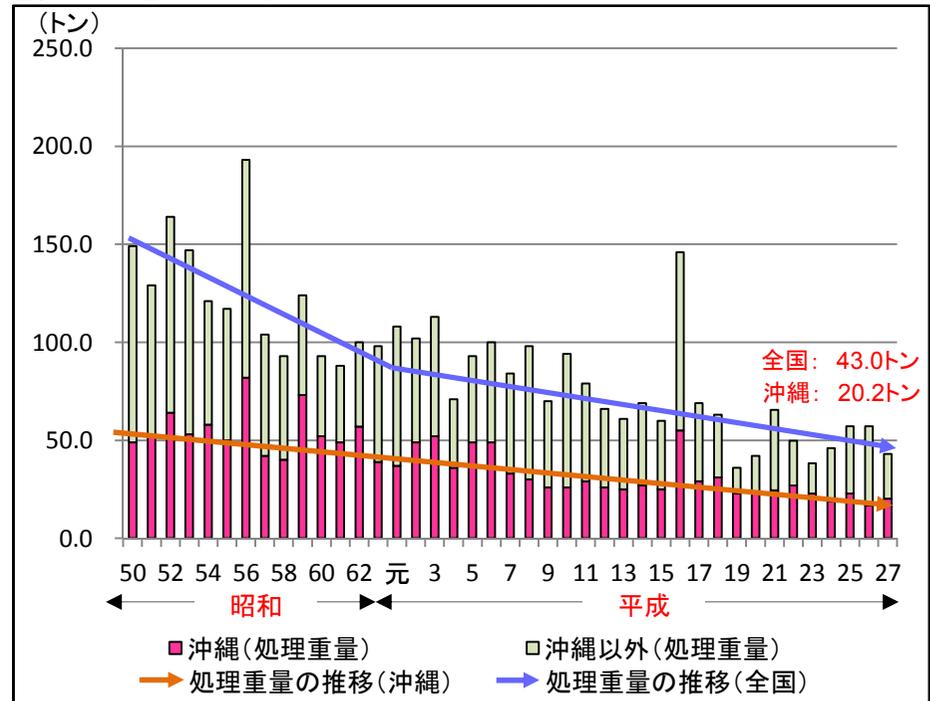
■ 顕著な処理事例

大阪市浪速区における避難対象者約2,200人を伴う不発弾処理。第103不発弾処理隊により安全化の後、回収(27年5月9日)

【表2-1】 不発弾等処理件数の推移 ※ 昭和49年度以前の記録なし



【表2-2】 不発弾等処理重量の推移 ※ 昭和49年度以前の記録なし



## (2) 海上における機雷その他の爆発性の危険物

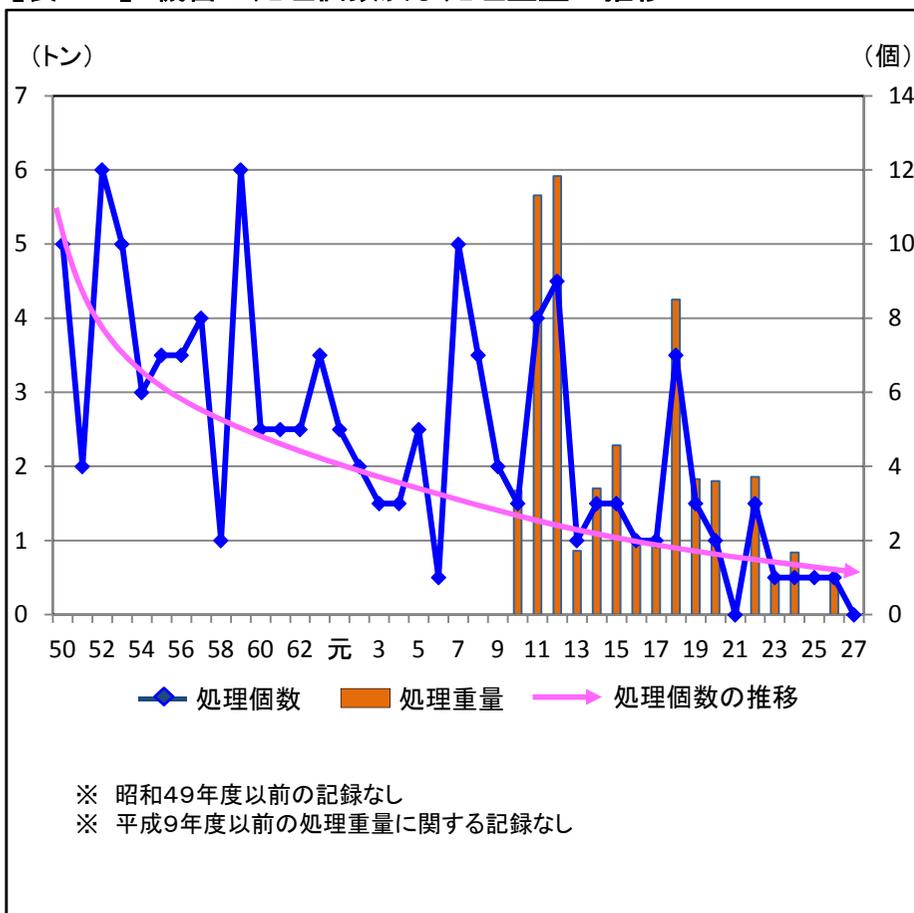
### ■ 機雷：処理個数 0個、処理重量 0トン

- 記録のある昭和50年度以降、戦後の時間経過に伴い処理個数・処理重量ともに減少傾向
- 27年度は処理実績は無いが、22年度から26年度まで毎年処理実績があり、船舶航行への影響大であるため、引き続き処理ニーズは存在しているものと予想

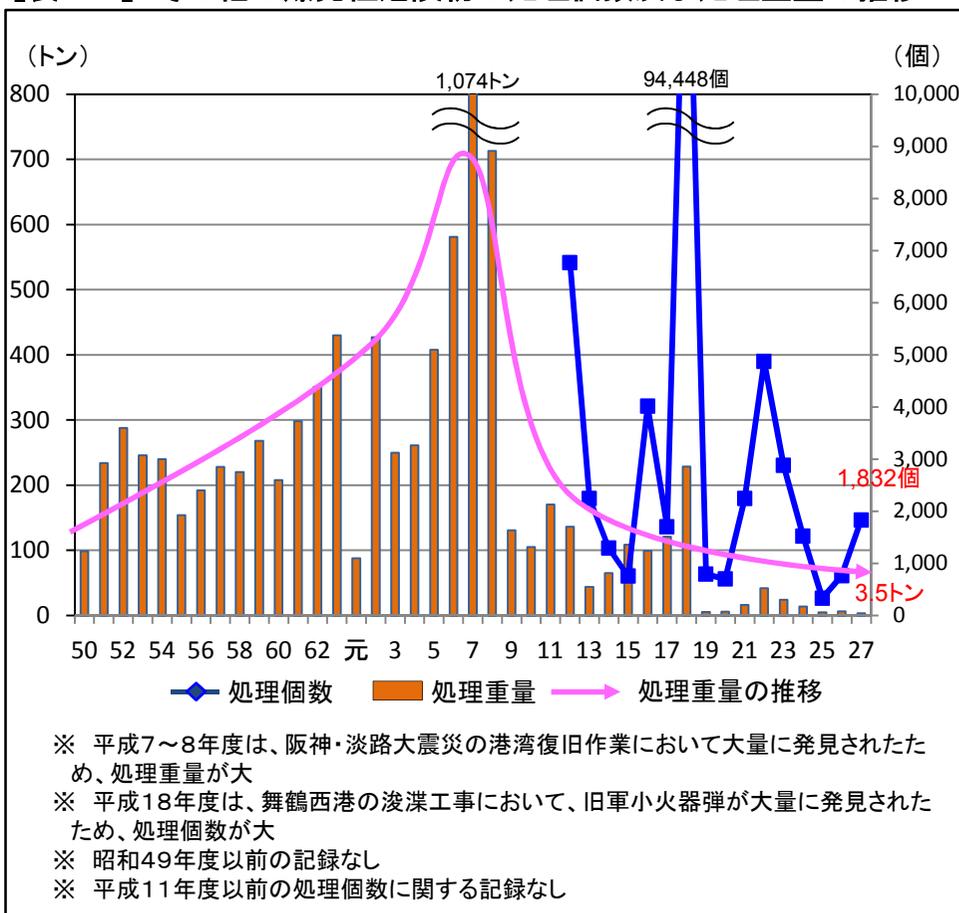
### ■ その他の爆発性危険物(魚雷、爆雷、爆弾、砲弾等)：処理個数 1,832個、処理重量 3.5トン

- 処理重量は、阪神・淡路大震災の港湾復旧作業のあった7年度をピークとして、9年度以降は低い水準で推移
- 処理個数は、年度による変動が大きく、港湾工事において大量に発見されるケース(18年度：舞鶴西港)があり、引き続き処理ニーズは存在

【表2-3】 機雷の処理個数及び処理重量の推移



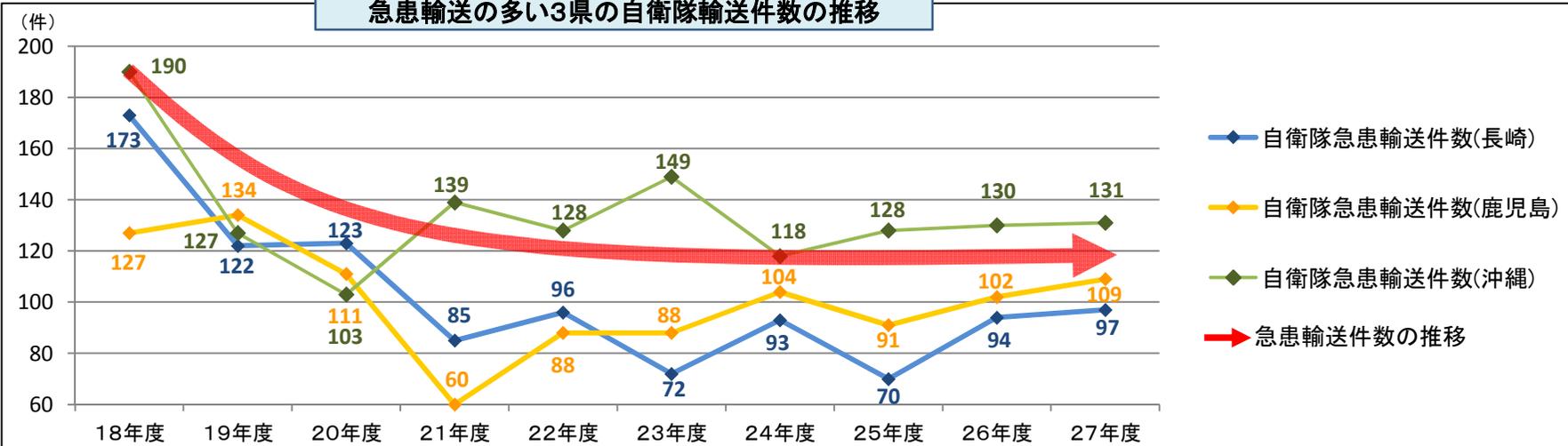
【表2-4】 その他の爆発性危険物の処理個数及び処理重量の推移



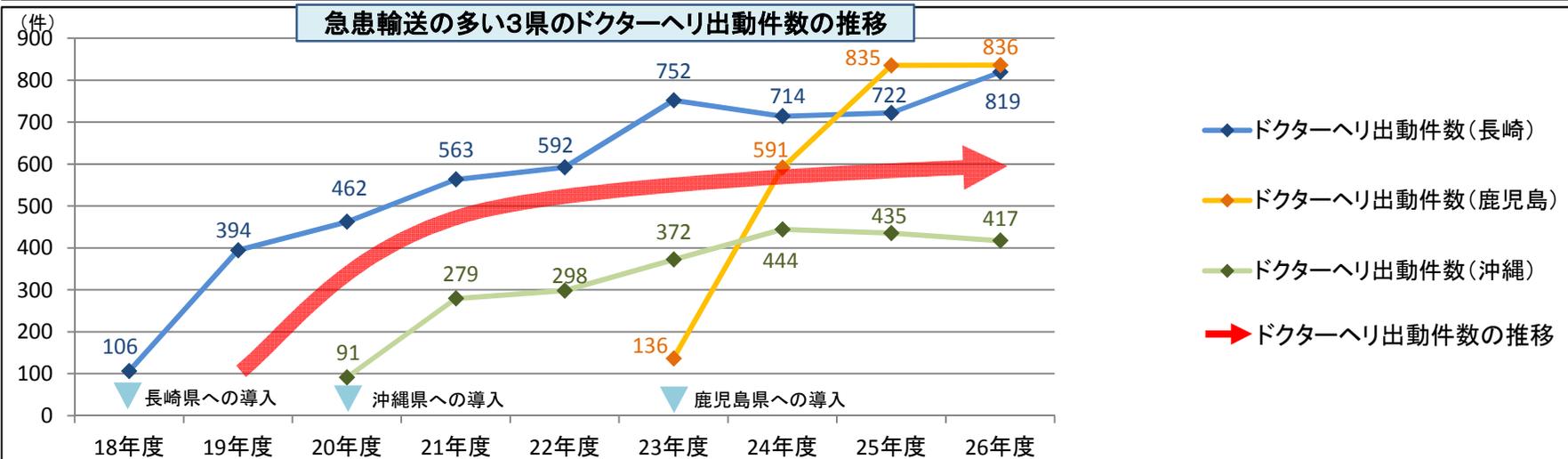
# 自衛隊の急患輸送件数とドクターヘリの導入促進との関係

- 自衛隊の急患輸送件数は、平成18年度以降、ドクターヘリ導入促進に伴い減少
- 特に、島しょ地域が多く、急患輸送件数の大部分を占める長崎県、鹿児島県及び沖縄県へのドクターヘリ導入の影響が大

### 急患輸送の多い3県の自衛隊輸送件数の推移



### 急患輸送の多い3県のドクターヘリ出動件数の推移



出典：長崎県ホームページ (<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/iryu/iryoutaisei/doctor-heli/42848.html>)  
 鹿児島市立病院ホームページ (<http://www.kch.kagoshima.jp/doc-heli/faq.html>)  
 浦添総合病院ホームページ (<http://jin-aikai.com/urasoe-sogo/guide/doctorheli01.html>)

## 平成27年9月関東・東北豪雨に係る災害派遣(茨城)

### 【概要】

|         |   |
|---------|---|
| 災害の概要   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成27年9月10日(木)、茨城県に大雨特別警報が発令され、鬼怒川において越水が発生。住民孤立、住宅の全半壊、道路冠水等の被害が生起</li> <li>○ 同日0905、茨城県知事から施設学校長(勝田)に、孤立者の救助、ボートによる避難支援、土のうによる水防活動、給水支援、入浴支援及び防疫活動に係る災害派遣要請、同時刻受理</li> <li>○ 同年9月19日(土)2200、茨城県知事から災害派遣撤収要請、同時刻受理</li> <li>○ 死者3名、全壊54戸、半壊5,486戸、床上・床下浸水3,952戸</li> </ul> |
| 災害派遣の概要 | 災害派遣部隊は、人命救助及び行方不明者捜索を第一義とした活動を実施するとともに、自治体のニーズを踏まえた生活支援等を併せて実施   |

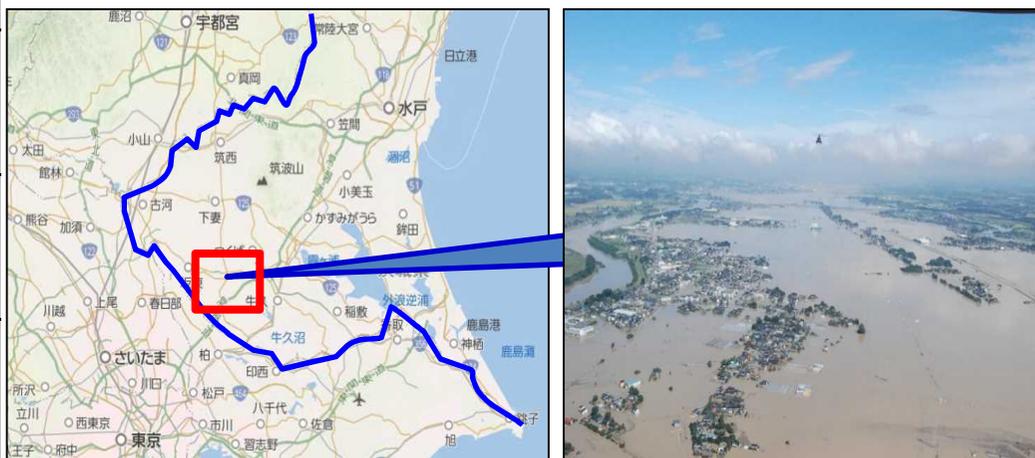
出典：茨城県ホームページ(<https://www.pref.ibaraki.jp/1saigai/201509/20160301.html>)

### 【活動実績】

|      |                             |                |                   |
|------|-----------------------------|----------------|-------------------|
| 捜索救助 | 総救助者数<br>(行方不明者<br>発見数(外数)) | 2,015名<br>(1名) | 10日(木)～<br>19日(土) |
| 給水支援 | 総給水量                        | 76,300L        | 12日(土)～<br>19日(土) |
| 入浴支援 | 総入浴者数                       | 1,554名         | 14日(月)～<br>19日(土) |
| 水防活動 | 活動地域                        | 3ヶ所            | 14日(月)～<br>17日(木) |
| 防疫活動 | 活動地域                        | 3ヶ所            | 15日(火)～<br>19日(土) |

### 【派遣部隊】

|       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| 陸上自衛隊 | 東部方面隊(第1師団、第12旅団、東部方面直轄部隊)、中央即応集団 等 |
| 海上自衛隊 | 航空集団(第21航空群、第51航空隊)                 |
| 航空自衛隊 | 航空総隊(航空救難団、偵察航空隊 等)                 |



# 平成27年9月関東・東北豪雨に係る災害派遣（茨城）

## 【搜索救助（全般）】

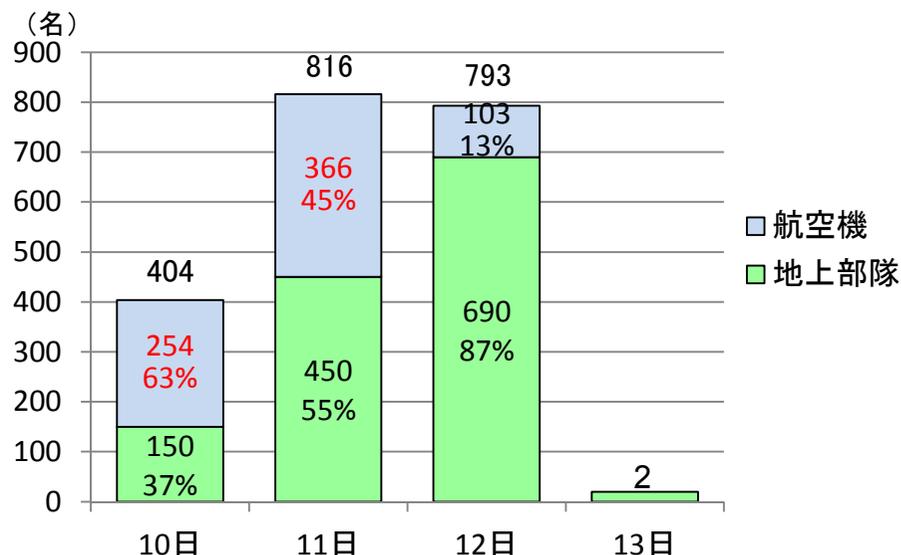
### （他の風水害に係る災害派遣との比較）

- 市街地が冠水したため、救助者数大（約2,000名）
- 各自衛隊及び関係機関との連携
  - ・ 航空部隊：陸海空自衛隊が地域を区分して搜索
  - ・ 地上部隊：警察及び消防と連携して地域を区分又は合同により搜索

### （救助者数の推移）

- 当初、冠水地域が広大（約40km<sup>2</sup>）であり、地上部隊の活動が困難
- 航空部隊（ホイスト）による人命救助が主体
- 初日：救助者404名中254名（約6割）
  - 2日目：救助者816名中366名（約5割）

|            | 関東・東北豪雨                     | 福知山豪雨                  | 九州北部豪雨                       |
|------------|-----------------------------|------------------------|------------------------------|
| 期間（派遣日数）   | 平成27年<br>9/11～9/19<br>(9日間) | 平成26年<br>8/17<br>(1日間) | 平成24年<br>7/12～7/21<br>(10日間) |
| 救助者数       | <b>2,015名</b>               | 27名                    | 281名                         |
| 航空部隊       | <b>723名</b>                 | 0名                     | 22名                          |
| 地上部隊       | <b>1,292名</b>               | 27名                    | 259名                         |
| 派遣航空機（延べ数） | <b>105機<br/>陸海空自</b>        | 0機                     | 35機<br>陸自のみ                  |
| 関係機関との連携   | <b>警察及び消防</b>               | なし                     | 警察及び消防                       |



警察との合同搜索



消防との現地調整



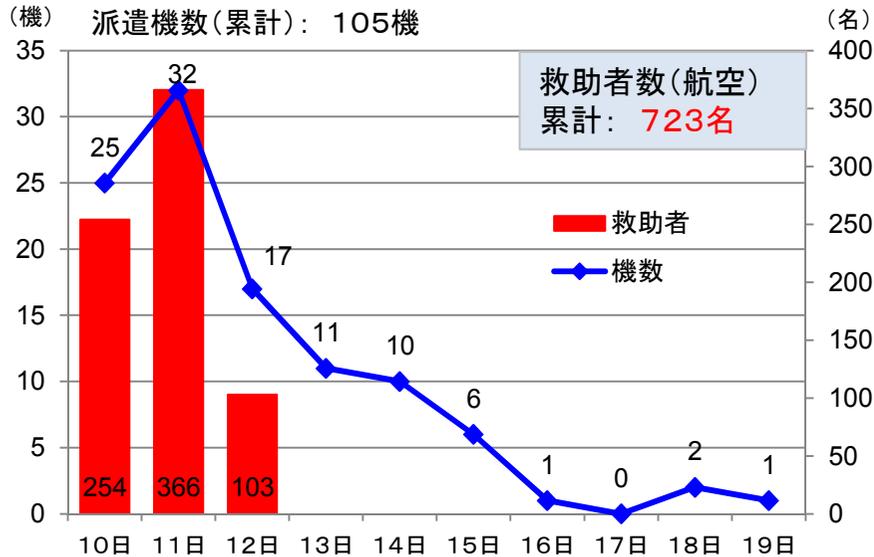
陸自ヘリによる人命救助

# 平成27年9月関東・東北豪雨に係る災害派遣(茨城)

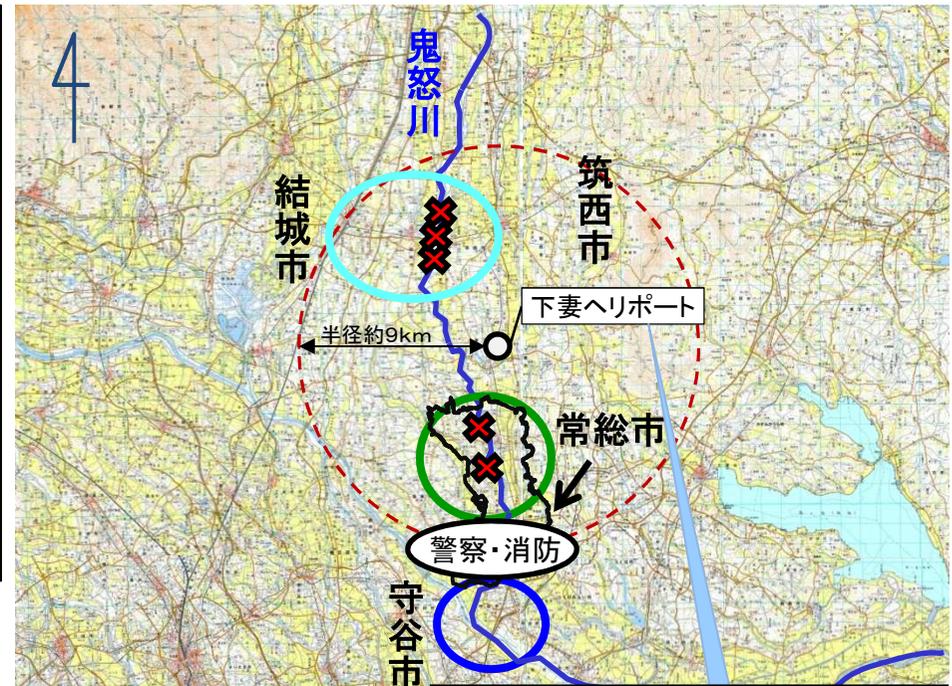
## 【搜索救助(航空部隊)】

- 陸海空自衛隊は、被害が大きい地域(常総市、守谷市、結城市及び筑西市)を、各自衛隊ごと区分して搜索
- 搜索救助状況の確認のため、UH-1により首相3官邸及び防衛省へ映像伝送を実施
- 陸自東部方面航空隊は、下妻ヘリポートにおいて、9月11日から19日までの間、局地情報提供所を開設し、半径5NM(約9km)、高度3,000ft(約900m)内の航空管制を実施。被災地上空のヘリに対する空域使用に関する認識の統一に寄与

## 【救助者数及び派遣航空機数の推移】



## 航空部隊搜索地域



下妻ヘリポートにおける航空管制

凡例: 決壊、越水 陸自搜索 海自搜索 空自搜索

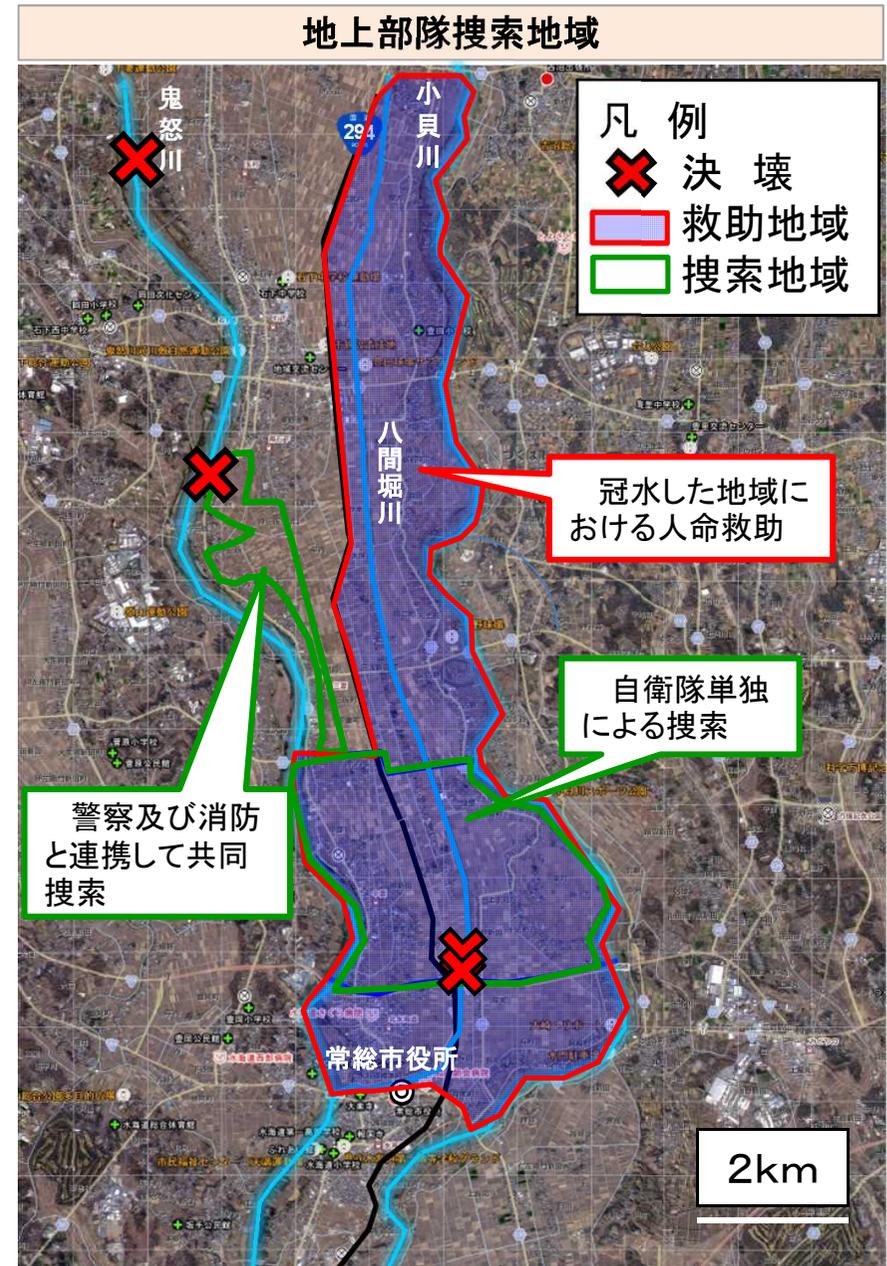
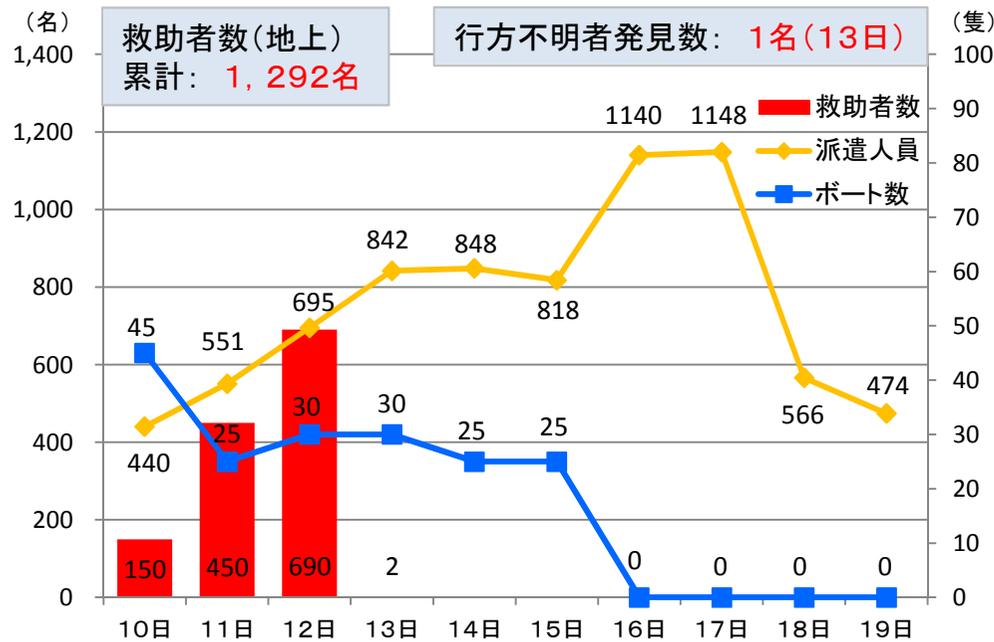
# 平成27年9月関東・東北豪雨に係る災害派遣(茨城)

## 【捜索救助(地上部隊)】

- 人命救助(10日～15日)  
冠水した地域において、ボートを主体として実施
- 行方不明者捜索(13日～19日)  
八間堀川決壊地域北側を、自衛隊単独により捜索を実施するとともに、鬼怒川決壊地域南側を、警察及び消防と連携して共同捜索を実施

## 【救助者数及び派遣人員・ボート数の推移】

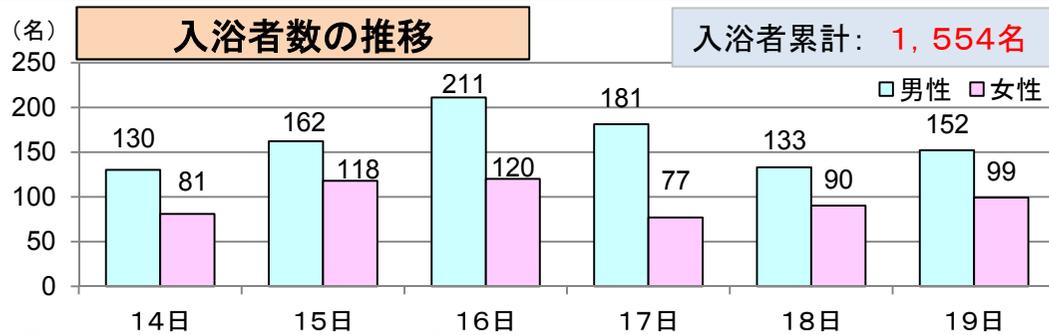
派遣人員(累計): 約7,535名、ボート数(累計): 約180隻



# 平成27年9月関東・東北豪雨に係る災害派遣(茨城)

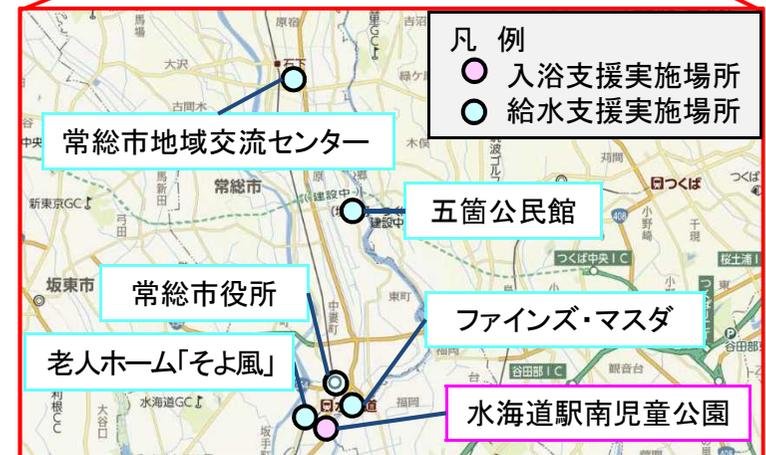
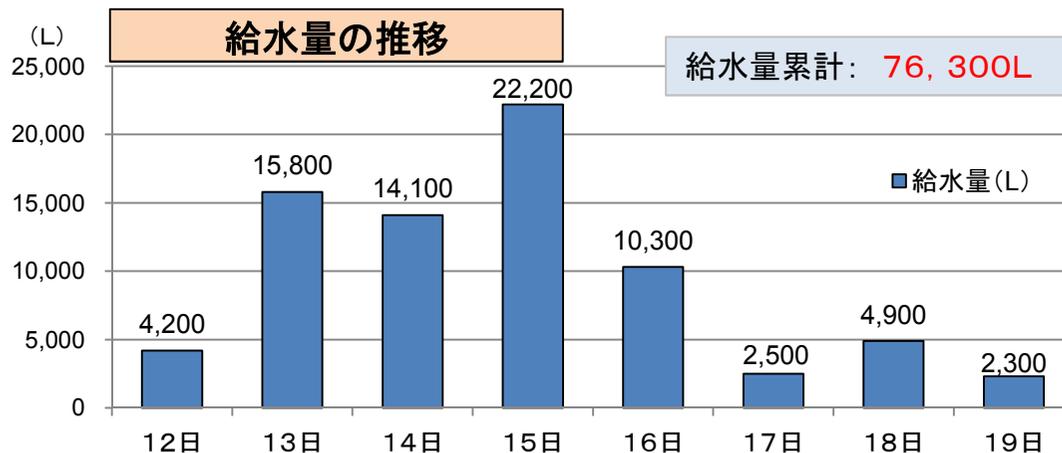
## 【生活支援(入浴支援)】

- 自治体のニーズを踏まえ、**避難者の多い水海道駅南児童公園に野外浴場**を設定
- 就業者等の要望に対応するため、**夜間の支援を重視**
  - 時間: 1500~2200
  - 18日以降、ニーズを踏まえ、活動時間を2100から2200まで延長



## 【生活支援(給水支援)】

- 自治体のニーズを踏まえ、**避難者の多い地域を選定**
- 地域住民に対し、水タンク車及び水トレーラーをもって、**24時間給水可能な態勢を継続**



# 平成27年9月関東・東北豪雨に係る災害派遣(茨城)

## 【水防活動】

- 人命救助及び行方不明者捜索の円滑化に資するため、施設科部隊をもって、人力及び機械力を総合し、以下の応急復旧作業を実施
- 八間堀川護岸の堤防決壊箇所の復旧(2箇所)
  - 鬼怒川沿いの道路崩壊箇所の復旧(1箇所)

## 【防疫活動】

- 被災地の衛生環境の悪化を防止するため、化学科部隊及び衛生科部隊が保有する装備品(除染車及び噴霧器)を活用し、保育所(3箇所)に対する防疫活動を実施
- 自治体のニーズ及び天候による効果を考慮しつつ実施(雨天時は、防疫効果が低下するため)



八間堀川における水防活動



保育所における防疫活動



# 平成27年9月関東・東北豪雨に係る災害派遣(茨城)



【ボートによる救助活動】



【航空機による救助活動】



【冠水地域における捜索活動】



【給水支援】



【入浴支援】



【水防活動】



【防疫活動】



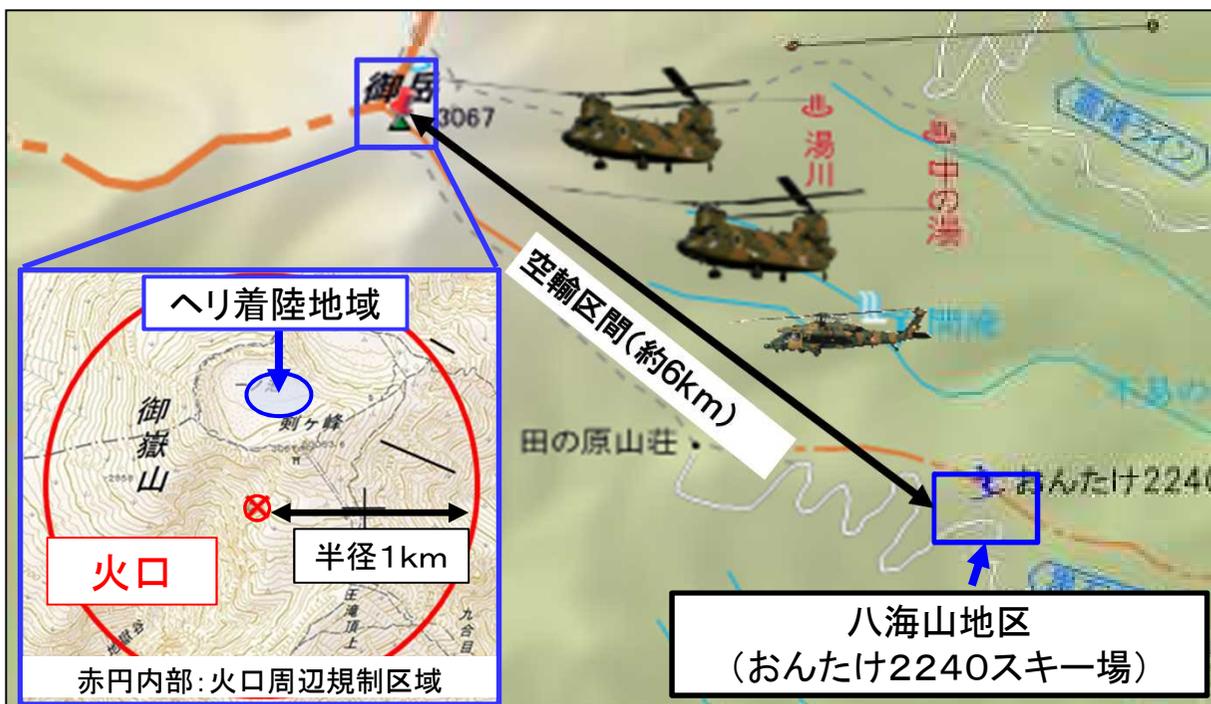
【撤収に伴う式典(常総市)】

## 御嶽山における行方不明者再捜索への支援に係る災害派遣

|              |   |
|--------------|---|
| 自衛隊の<br>対応   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成27年7月3日(金)1700、長野県知事から第12旅団長(相馬原)に、<b>行方不明者再捜索の支援(捜索要員(警察・消防)、発見された行方不明者の空輸等)</b>に係る災害派遣要請、同時刻受理(※)</li> <li>○ 7月25日(土)、山頂周辺へのシェルター(4基)設置を支援</li> <li>○ 7月29日(水)～8月6日(木)、長野県及び岐阜県の警察・消防による行方不明者再捜索を支援(7月31日(金)、岐阜県警が<b>行方不明者×1発見</b>)</li> <li>○ 8月7日(金)1030、シェルター撤収が完了し、長野県知事から災害派遣撤収要請、同時刻受理</li> </ul> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>※ 本災害派遣は、26年度に実施した「御嶽山における噴火に係る災害派遣」において、降雪等により行方不明者捜索を一時中断していたが、27年度に長野県が行方不明者の捜索を再開することとなったことから、再開し支援を実施したもの</p> </div> |
| 本災害派遣<br>の特性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>噴火警戒レベル2(火口周辺規制)</b>であり、<b>引続き噴火の警戒が必要な地域における危険な活動</b></li> <li>○ 二次災害防止のため、シェルター設置要員及び捜索要員の<b>緊急退避等も念頭</b>におき実施</li> </ul>   |

|                              |                          |
|------------------------------|--------------------------|
| 派遣部隊                         |                          |
| 東部方面隊(第12旅団、東部方面直轄部隊)、中央即応集団 |                          |
| 航空機                          | 延べ101機(CH-47、UH-60、UH-1) |

|                |     |           |
|----------------|-----|-----------|
| 捜索要員等輸送実績(延べ数) |     |           |
| 人員輸送           | 警察等 | 920名      |
|                | 医師  | 12名       |
|                | 合計  | 932名      |
| 物資輸送           |     | シェルター4基 等 |



# 御嶽山における行方不明者再捜索への支援に係る災害派遣



【シェルター設置支援】



【シェルター撤収支援】



【八海山地区における輸送支援①】



【八海山地区における輸送支援②】



【山頂における輸送支援①】



【山頂における輸送支援②】

## 火山活動に係る災害派遣等

### 【概要】

平成26年、御嶽山の火山活動に係る災害派遣以降、自治体等からの災害派遣要請の有無に関わらず、**自衛隊が活動する機会が増大**

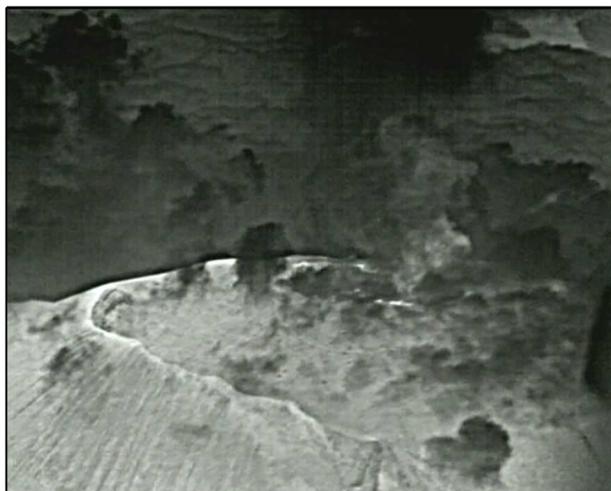
- 平成27年5月29日(金)、口永良部島の爆発的噴火に伴い、鹿児島県知事から第8師団長(北熊本)に、**避難支援及び情報収集**に係る災害派遣要請受け
- 常時観測火山(浅間山及び阿蘇山)における火山活動の活発化に伴い、各自衛隊は**情報収集(連絡員の自治体への派遣を含む。)**を実施

口永良部島  
【自衛官による観測】



- **情報収集**(ヘリ映伝を含む。)
- 住民避難及び一時帰島時の航空支援(**不測事態に係る空港待機**)
- 自治体**首長の視察支援**
- **気象庁の観測支援**(官庁間協力)

浅間山  
【ヘリ映像伝送によるIR画像】



- 情報収集
- **陸自UH-1**によるヘリ映像伝送及び航空偵察
  - **空自F-15及びRF-4**による航空偵察

阿蘇山  
【航空機による航空写真】



- 情報収集
- **8師団及び熊本地本連絡員**を熊本県庁等に派出
  - **陸自UH-1**による航空偵察
  - **空自F-2**による航空偵察